



エコマネーがつなく流域活動紹介

愛知県の豊川流域の人材育成事業「とよがわ流域大学」のコーディネートをしている愛知大学経済学部助教授の岩崎先生より問い合わせがあり、視察に来て頂きました。

「とよがわ流域大学」は愛知県が主催し、愛知大学の三遠南信地域連携センターが事務局をして全10回の講座とフィールドワークを行い、豊川流域で生活している学生や県民などの参加を得て、ワークショップ的な講座を開講して、豊川水系における“流域圏づくり”に中心的な役割を果たす人材の育成を目指しています。

流域内の交流や連携にエコマネーの取組を導入している「瀬戸川フォーラム」の事例を研究して豊川流域でも活用できないかと視察に訪れて頂きました。岩崎先生は、今回の講座で「地域通貨と流域一体化」、フィールドワーク「地域通貨」を担当され、当日は蒲郡の地域通貨「がま」を視察後に藤枝に大型バスで35名の講座生と一緒に来て頂きました。



エコマネー「どんぐり」

瀬戸川フォーラムの取組の一つ「元井戸」再生を紹介したかったのですが、あいにく雨天のため藤の瀬会館(藤枝市

「エコマネーどんぐり(コミュニティー通貨)」がつなく上下流の連携と交流の広がり

4年前から続いている瀬戸川フォーラム恒例のエコマネー「どんぐり」の評判がついに県外に伝わりました。

本郷)で瀬戸川フォーラムの活動紹介と「エコマネーどんぐり」の取組について紹介をさせて頂きました。瀬戸川フォーラムからは、山田代表、島田土木事務所の吉澤さん、事務局の黒瀬、小田が対応しました。

受講された皆さんからは、エコマネーが大変かわいいことや手作りされていることに大変驚かれていました。エコマネーはいろいろな形で流通することに意義があると言われていますが、「どんぐり」は自分で持ち続けることに意味があるとの意見も聞かれました。

「どんぐり」は瀬戸川の未来像づくりの学習会やワークショップの参加者の方々に感謝の気持ちを込めて配布され、また、瀬戸川を総合学習の教材として学んだ子ども達にも手渡されています。小学校や団体の協力と理解を得て、想定していた以上に大好評で積極的な交流を生み出しています。

これからも瀬戸川流域の交流と活性化を進める意味でもまた、瀬戸川流域の自然環境を望ましい姿に近づける意味でもエコマネー「どんぐり」を広める活動を積極的に行っていきたいと考えています。



瀬戸川通信 第21号

発行 瀬戸川フォーラム 平成17年11月28日



瀬戸川 藤枝市宮原 頭首工

第8回せと川フォーラム 開催!!

瀬戸川フォーラムは、平成17年11月19日(土)に藤枝市本郷にある総合管理センターにおいて「せと川フォーラム2005」(第8回:共催島田土木・藤枝市・焼津市)を行いました。今回のフォーラムは、「心なごむふるさとの川づくり」を副題に、藤枝市瀬戸谷地区の秋の大イベント「せとやまるかじり2005」に相乗りで開催しました。「せとやまるかじり」を運営する「瀬戸谷生き生きフォーラム」の協力を得て藤の瀬会館に「瀬戸川水族館」を展示するなどして、通常のまるかじりでは味わえない企画を持ち込んで多くの集客の中で瀬戸川フォーラムのアピールを図ることが出来ました。

今回のフォーラムでは、午前中は「せと川まるごと見つめ隊」午後は「せと川楽会」と題して瀬戸川の清流と里山を守るため、たくさんの人や団体の交流と瀬戸谷地域の元気をもらいながら、こどもたちや学生リーダーの協力による地域の活性化にと開催しました。

瀬戸川フォーラム関係者は、流域で環境保全活動を行っている15団体メンバーと団体参加者で約150名の参加がありました。まるかじりに当日参加して頂いた一



まるかじり会場 藤の瀬会館 (藤枝市本郷)

般の方にも多数「水族館」を覗いてもらったり、パネル展示(瀬戸川フォーラム参加団体の活動紹介)の説明を聞いていただきました。「せと川楽会」では、日頃の研究や調査、活動成果を参加して頂いた方々に話題として提供して頂きました。また、文化活動として瀬戸谷に伝わる「馬洗い淵のカッパ」伝説を山田先生が再話として書いたものを平井さんの朗読により皆さんに聴いて頂きました。

まるかじり会場では「楽市」として、流域内で活動する団体が海産物、上流域の物産や手作りのクッキー、グッズなど準備し、活動の紹介と同時に参加者の方々と交流を深めました。

今年もせと川フォーラム恒例のエコマネー(環境保全活動や学習をして頂いた方に瀬戸川フォーラムがお礼の意味を込めて提供している)「どんぐり」が大活躍して、瀬戸谷地域のまるかじり出展者、参加者を巻き込んで「楽市」を大いに盛り上げてくれました。



瀬戸川フォーラムは「瀬戸川」をキーワードに企業やNPO、活動団体、行政、学校、一般市民の協働の取組として活動しています。この取組を市民にお知らせすることが出来たことは一定の効果があったのではと感じています。さらに、継続的な活動、広報、交流を通じて宝物である「瀬戸川」を生かした地域づくりを目指して、活動を続けていく必要性を強く感じました。

瀬戸川フォーラムの目的

1. 流域の自然の保全と文化の振興を図る。
2. 流域を中心に活動する市民の交流をすすめ、流域の望ましい姿を考える。
3. 子供たちの健全な成長にとって重要なふるさとの自然や文化に触れる環境や機会を設ける。

守りたいのは命、残したいのはきれいな水と心の絆

協賛各社

黒川医院 菅ヶ谷内科医院
青島歯科医院 (株)松浦恒産
岡歯科医院 小柳津久男事務所
(有)桑原モータース
佐野設計工房一級建築事務所
服部歯科医院音羽町診療所
(株)エクノスワタナベ
(株)山田組 大鐘測量設計

瀬戸川フォーラム ネットワーク団体

しずおか流域ネットワーク/志太自然ネットワーク
森林組合おおいがわ/静岡県島田土木事務所
瀬戸川 朝比奈川非出資漁業協同組合/ふるさと建設の会
大井川流域ネットワーク/水土里ネット大井川/志太エコクリエイト
NPO法人 VIT/NPO法人 里の楽校/(社)藤枝法人会

瀬戸川フォーラムのHPもご覧ください。http://www.ryuikinet.gr.jp/setogawa/
瀬戸川通信 編集責任者 大井川流域ネットワーク 小田 稔彦
島田市中央町31-10 TEL 0547-36-0706

話題提供

せと川楽会

代表あいさつ

山田辰美教授
瀬戸川流域で様々な取組や研究をしている団体の発表の場です。皆さんに聞いて頂いてお互いの活動を理解し合ってより良い瀬戸川をつくりましょう。



山田代表と司会の五味響子さん

瀬戸川の自然体験活動

NPO法人里の楽校
学生リーダー

8月4日から7日にかけて行われたせと川夏休み子どもキャンプの報告をサンタとトナカイに扮した学生リーダーから発表が行われました。



絶滅危惧種カワバタモロコの増殖成功

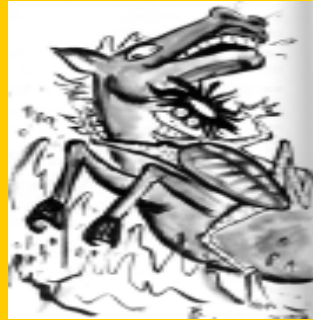
焼津水産高校 2年
成島 弘国さん

藪田川に棲む「カワバタモロコ」の保護活動を行っています。カワバタモロコの生態を研究して、今回たくさんのカワバタモロコの増殖に成功し、たくさんの稚魚を藪田川に放流しました。

文化活動

朗読 (馬洗い淵の カップ)

平井 睦子さん
瀬戸谷の今はなくなってしまった馬洗い淵に伝わる昔話です。



新月伐採と木材 の地産地消費

新井 真氏
(新井建築設計)
冬の新月直前に伐採し、乾燥をさせた木材は割れやくるいが少なく、良い家が造れます。地域の木材を使用して家を建てることで、森林保全につながります。



瀬戸川の魚道 調査

島田市立第5小学校5年生 島田土木事務所
総合学習で大津谷川の学習をしました。大津谷川にある段差によって魚が上流に行けなくなっていました。瀬戸川のいろいろな魚ののぼり道を調べ、大津谷川に使えないか調べました。



せと川楽市

パネル展示

せと川水族館



大人から子どもまで大人気!



生き物タッチコーナー 長田氏



水槽展示協力 (株)エクノスワタナベ



グループナチュラル 手作りパン

まるかじり



NPO法人里の楽校 アニミズム



水土里ネット大井川+島田土木事務所



志太エコクリエイト(ピオ田んぼ紹介)



まるごと見つけ隊

鳥の羽

子供たちが拾ってきた鳥の羽は、トビ(1)、

ノスリ(1)、カラスsp.(1)、キジバト(4)、ニワトリ(12)、不明(7)などで計26枚でした。子供たちの反応はまずまずだったと思います。なかでも、煤けて黒くなったボロボロの羽を洗ってみたら鷹斑がはっきり出てきてタカかフクロウの羽だと説明すると拾った本人もびっくりしていました。(後でサンプルと比較してノスリとわかりました。)(報告:新井氏)



しずおか流域ネットワークやきそば



まるかじり終了(20日) 餅投げ

瀬戸谷中学校 活動報告

瀬戸川で暮らす魚

渡辺真千子さん(2年生)

今年の子ども県議会で質問した内容について報告して頂きました。瀬戸川に棲む貴重な魚のアカザが減っています。自然にやさしい水辺づくりをしましょう。



開催地の瀬戸谷地域から発表して頂きました。ありがとうございました。



瀬戸川の水生生物調査

片山 昇先生
5年間続いている中学生による瀬戸川水生生物調査報告です。きれいな水に分類されていました。中学生がイモリの観察をした様子も発表してくれました。



ヘビトンボ